

## 【保土ヶ谷区】令和 4 年第 3 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和 4 年 8 月 31 日 午後 3 時 30 分 ～ 午後 4 時 47 分
場 所	保土ヶ谷区役所本館地下会議室
出席者	<p>【座 長】 齊藤 伸一 議員</p> <p>【議 員】 青木 亮祐 議員</p> <p>森 ひろたか 議員</p> <p>北谷 まり 議員</p> <p>磯部 圭太 議員</p> <p>【保土ヶ谷区】 出口 洋一 区長</p> <p>近藤 健彦 副区長</p> <p>岩井 裕子 福祉保健センター長</p> <p>守屋 大介 福祉保健センター担当部長</p> <p>井上 義晃 保土ヶ谷土木事務所長</p> <p style="text-align: right;">ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 令和 3 年度保土ヶ谷区個性ある区づくり推進費等執行実績について</p> <p>2 令和 4 年度保土ヶ谷区個性ある区づくり推進費等執行状況について</p> <p>3 その他</p>

**議題1 令和3年度保土ヶ谷区個性ある区づくり推進費等執行実績について**

北谷議員：

「ほ도가や happy 子育て～妊娠期からの安心サポート～」 「こどもを守ろう！地域子育てつながり事業」に関連して、こども家庭支援課がこども家庭総合支援拠点として位置づけられたことで、役割がどういったものになったのか。人員体制について、拠点に位置づけられる以前の体制と位置づけられてからの体制、そしてさらに今年度新たに組まれた体制を伺いたい。

大吉こども家庭支援課長：

法令に基づいた体制が整備され、虐待に対して迅速に対応が出来るようになった。支援もより厚くできるようになった。

従前は、虐待に対する相談対応チームは、専任の保健師が1人・ワーカー6人がチームになり、それぞれ地区・住所によって保健師と担当のワーカーで対応していた。拠点になり専任の保健師1名ワーカー1名で対応する形になり、平成31年度からいた虐待の担当係長が、スライドして、こどもの権利擁護担当係長になった。その下に専任の今言った職員2人がついており、その下に会計年度任用職員が現在のところ5名いる。日頃の確認や進行管理の事務を会計年度任用職員が担う事で、迅速に対応を行い、より手厚い支援できるようになっている。

発言の  
要旨

北谷議員：

「窓口サービス向上事業」だが、療養証明書をとりに行った高齢の区民の方が、面倒くさそうに対応されたと相談があった。ネットでやると簡単と言われたが、ネット対応が出来れば、窓口に来て、申請書をもらうことはしない。ネットの方が早いという対応だと、やはり言われた方としては、なんてこと言われたんだろうとってしまう。想像力をはたらかせて対応をお願いしたい。窓口対応について研修をしているとのことだが、相手の立場にたった対応をお願いしたい。

斉藤議員：

同じ言葉であったとしても、そこは相手側に立ってということは、当然のことだと思う。ぜひ区民の方が来てよかったと思える対応をお願いした

い。

磯部議員：

「地産地消推進事業」は、コンテストでは一品でも保土ケ谷のものを使っていればよいということだったが、出来ればすべて保土ケ谷の物を使ったレシピを今後は考案してほしい。保土ケ谷の都市農業は昔から盛んで、野菜か果樹だと思う。地産地消推進条例もあるので、季節ごとに保土ケ谷産をアピール出来るような取組につなげてほしい。(要望)

磯部議員：

「星川駅周辺のバス交通アクセス向上検討事業」だが、星川駅前広場ができて5か月経つ。昨年度、様々なアンケート調査や分析結果なども考慮しながら検討していただいたと思うが、区民の皆さんの正確なニーズを把握していただきたい。交通事業者の事情もあるので簡単にできるものではないが、区役所、議員団としては、そういった交通事業者の事情を考えつつも、区民のためになることをするというのが根底にある。10月に星川駅にアプローチする路線に新しいバス停が完成しひと段落はするが、アクセス改善などは終わりのあるものではなく、常に見続けていく必要があるのでこれからも取組みを続けていただきたい。(意見)

斉藤議員：

星川駅周辺バス交通アクセスについてだが、一過性のものではないと思う。ブラッシュアップもかけていかなければいけないし、このことについて、主管はどこなのか、責任を持つところはどこなのか、権限はどこなのか、また指標はどうあるべきなのか、継続してやらないといけない。また、広聴体制、どう区民の声を適用していくのかが、とても大事になると思う。まず仕組みを整え、人事異動の度に変わってしまわないようにしてほしい。

石川区政推進課長：

一過性のもにしないということだが、今回この星川駅周辺のバスアクセスについては、星川駅前の駅前広場が開設されることに伴い、区局連携事業でやったが、当然その駅前広場が出来て、その予算がなくなったからといって、バスのことを何にもやらないということではない。バス事業者

に乗降者数のデータを求めていき、事業者の立場も考慮しつつも、やはり区民の皆様が出来るだけ不便を被らないように、引き続き事業者とも話をしていく。地域の皆様とも話をしながら、取り組んでいきたいと考えている。

齊藤議員：

大変申し訳ない言い方になるが、先ほど申し上げたように体制を整え、一過性で終わらないよう、だれが担当なのかということも明確にしてほしい。

## **議題 2 令和 4 年度保土ヶ谷区個性ある区づくり推進費等執行状況について**

### **(1) 区制 100 周年に向けた地域活動ブースター事業**

森議員：

アンケートをとる「区内で活動する団体等」の「等」は、どの範囲が入っているのか伺いたい。

金子地域振興課長：

区を挙げた 100 周年の機運醸成に向けたアンケートの事業団体については、スポーツ推進委員、青少年指導員、環境事業推進員ほか、公園愛護会や商店街や区連会や老人クラブ等、様々な区と関りがある団体をお願いしたいと考えて進めている。それぞれの団体が 100 周年に向けて取り組みたいことや、どんな取組があったらいいかといった内容のアンケートを実施している。

森議員：

是非とも各種団体以外にも幅広くご意見を伺う場を設けて頂きたい。また、アンケートの結果が出たら、是非この場で共有してほしい。(要望)

### **(2) ほ도가や元気づくり事業／ほ도가や歯っぴい Health 事業について**

磯部議員：

歯科口腔保健条例もあって、区としても積極的に歯科医師会と連携して様々な取組を推進していると思うが、区としてどういう姿勢、考えを持っているのか、伺いたい。

檜崎福祉保健課長：

歯の健康、歯科口腔の健康が全身の健康につながるということで、非常に重要なものと考えている。子どもの頃から高齢になるまで、もっと言えば高齢になる前にしっかりとしたケアの方法等を身に付けていただくことが重要と考えている。そのためには、あらゆる手法を使って、地域に出向いて直接働きかけること等を考えている。

磯部議員：

保土ヶ谷区の歯科衛生士は、どのように地域や歯科医師会との連携やスキル・経験を積んでいくのかを伺いたい。

檜崎福祉保健課長：

歯科衛生士の教育としては、健康福祉局保健事業課とも連携し協力しながら行っている。歯科衛生士はこの事業の前面で活躍しており、自ら地域に出向いて、講習等を行っている。今後も保健事業課と連携しながら、行っていきたい。

### **(3) 障害者地域支えあい連携推進事業**

青木議員：

精神障害者の包括的なアウトリーチが始まって1年と半年弱だが、数が少ないながらも誰一人取り残さないというこの保土ヶ谷区の実組は、すごくいいことをしていると思っている。すべて網羅してというのは、相手の事情もあつたりするからなかなか難しいと思っている。月一回チーム員会議を開催しているが、その現場の空気感はどうなのか。

近藤高齢・障害支援課長：

精神障害の方やひきこもり状態にある方については、待ちの姿勢では手が届かないので、専門の先生を交えた訪問のチームを発足させ、標準的な支援期間を半年間としてスタートしたが、なかなか簡単には心を開いてくれない。粘り強いアプローチが必要だが、どこまでやったらいいのかといったところが悩ましいところ。一方で、今まだ10ケースくらいしか扱っていないが、潜在的にはもっと多くの数があると思う。そういった方々に手を差し伸べるには、一定のところまで区切りをつけなければならないと思

っている。

青木議員：

6か月で区切らなくても、いろいろブラッシュアップしていく中で、その期間は決めていけばいいと思う。一方で精神障害者団体の方々は、ものすごくこの事業に注目をしている。有り難い取組だと。ぜひこれを広めてほしいという要望もある中で、私が一般質問した中で、浮き彫りに出たのは、健康福祉局との空気感の違いがあり、保土ヶ谷区の思いが局には届いていない。対象者が限定されるとか、医療保険等との重複もあるため、なかなか全市展開していくのが難しいと思うが、所感を伺いたい。

近藤高齢・障害支援課長：

この事業を横浜市全体で行うには、費用対効果を含めて見極めなければならない難しさも感じている。いい取組だが、目に見える成果がなければならぬと思っている。この10月から事業評価を行い、この評価をきちんと伝える努力が必要と思っている。

青木議員：

課題感を出し、しっかり政策をブラッシュアップして、いい方向にいけばいいと思うし、団体の方からもそれなりの成果が上がっていると報告をもらっているので、是非このまま進めて頂ければと思う。区長、所感を伺いたい。

出口区長：

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築は、大きな課題だと感じている。幸い保土ヶ谷区には支援してくれる機関があり、現場の職員の強い使命感もあってモデル的にスタートさせたが、すぐに効果が表れるものではないのが悩ましいところ。そうしたことから今回、有識者も入れて事業評価を行う。他にも関心を持っている区があるので、将来的に横展開も図れるよう、他区とも情報共有しながら進めていきたい。

森議員：

18区の中でもかなり先進的な事例で、注目されている事業だと思うので、10月以降しっかりと事業評価を行って効果を出し、市全体の取組にな

るように区役所一丸となって取組を進めて頂きたい。令和4年度から精神障害者生活支援センターに事務局を変更し、より専門性の高い、支援に特化した体制に変えたと思うが、この精神障害者生活支援センターの位置づけと、関係性について伺いたい。

近藤高齢・障害支援課長：

精神障害者生活支援センターには、今年から事務局の機能を担ってもらっている。精神障害を扱う部署としては一番専門的な知識やノウハウをもっている機関に事務局を担ってもらうという形になった。具体的には実際に訪問する際にどの方に行ってもらおうとか、そういった方々への報酬の支払い等も含めて担ってもらい、訪問支援を含めたケース全体の進捗管理も担ってもらっている。

森議員：

その役割と責任がしっかりと伝わるような形でお願いしたい。

斉藤議員：

今後の予定、対象者の選定方法を伺いたい。

近藤高齢・障害支援課長：

対象者は、地域の民生委員等から声が上がってきた時に、対象になるかどうかをチーム員会議の中で取り上げるという形だ。

斉藤議員：

傾向として、大変であればあるほど、なかなか声を発せない。潜在的に多くの方がいるので、お互いに知恵を出し合いながら、情報も共有しながらなんとか一人でもお支え出来るようにしていただければと思っている。

### **議題3 その他**

#### **(1) コロナ禍における児童施設及び高齢者施設の状況について**

北谷議員：

コロナに関連して伺いたいのは、コロナで休所した保育園・放課後キッズクラブ・放課後児童クラブがどのくらいあったのかを伺いたい。

大吉こども家庭支援課長：

保育園・キッズクラブ等は、濃厚接触者の調査をしていないので、完全な休園は稀だが、保育園では1園、7月から8月にかけて休園があった。その園は小規模保育室のため、保育者がコロナ感染したり、濃厚接触者で保育が出来ないという状況だった。放課後児童クラブは2か所あった。

自粛要請は保育園は延べで8園あった。保育士の数が、減ってしまい定員一杯は見れないため。放課後キッズクラブも3か所、登園自粛というような対応を行った。

北谷議員：

高齢者施設での事だが、なかなか入院が出来ずに施設での留置きでクラスターになったりと、いろいろ報道がある。保土ヶ谷区も例外ではないと思うが、そのあたりの所感を伺いたい。

檜崎福祉保健課長：

保土ヶ谷区に関しても、高齢者施設だけではなく社会福祉施設におけるクラスターは、相当数発生しており、クラスターが発生した際は、施設の方の混乱がおきないように施設の看護師・施設員の方と連携をとりながら感染拡大防止や、療養経過の確認を一緒に行っている。毎日、患者の状況をエクセルシートに入力してもらい、直接確認をしている。医師会の先生等のご協力を頂きながら、療養の支援もさせて頂いている。

## **(2) 区役所内のコロナワクチン相談状況について**

北谷議員：

ワクチンの相談員が区役所に配置されているが、相談状況を伺いたい。

近総務課長：

昨年の6月から始まっているが、令和3年度は合計で5, 532件相談があった。今年度は4月から7月までの4か月で1, 723名の相談があった。

## **(3) 行政と旧統一教会の関わりについて**

北谷議員：

旧統一教会の関係で区社協への寄付の状況と、区の施設利用状況の有無



などの調査結果を伺いたい。

近総務課長：

区社協への寄付はないと聞いている。また施設の利用状況は調査中だ。

#### (4) 旧県税事務所跡地活用について

森議員：

2階のテナント部分だが、ここに入るテナントに業種など、入居の条件はあるのか。ケアプラザのすぐ横に入るテナントなので、福祉に関わるものであれば、一番馴染みがいいように感じている。業種業態がフリーに入れるテナントとして募集をしているのか、それとも、何か考えがあって募集をしているのか、その点について伺いたい。

横浜市住宅供給公社：

2階がケアプラザということで、親和性がとれた施設をターゲットに公募している状況だ。インモール型で外部からの視認性が低いため、内部で完結されるものが想定される。また、ガスが通っていないので、重飲食は基本的にできない。事業所もしくは会員制の教室、クリニック等が想定されている。

森議員：

ケアプラザも含めて、旧県税事務所の跡地活用は地域の期待も非常に大きい。より活用しやすい、また、親和性の高いテナントの誘致をお願いしたい。

もう一点だが、以前私の方からもご要望させていただいた、保土ヶ谷駅東口のエレベーターが、各先生方、区の皆様のご尽力のお陰で設置された。しかしながら、福祉車両が停車する乗降場所がない。当時、要望はしたが、なかなかロータリーには設置が難しいということで、そのまま経過している。以前も、このケアプラザを中心とした、旧県税事務所跡地のところで何かしらの手立てがないかということで要望してきたが、その点の議論状況、検討状況を教えていただきたい。

横浜市住宅供給公社：

今回の図面には添付されていないが、地下1階が駐車場となっている。駐車場のケアプラザ区画の中にも車椅子用の区画が一つと、地下から上階に上がるエレベーターホールの脇に、車椅子対応の塗り付けの駐車場が一つ整備されている。運用方法としては一度地下に行く必要はあるが、共用のエレベーターホールから上階に上るルートを確認している。

森議員：

利用しない方もそこで乗降できるということであれば、開業後も確実な動線の確保をお願いしていきたい。

磯部議員：

意見だけにするが、これを機に保土ヶ谷駅東口だけでなく西口も含めた、保土ヶ谷駅全体のポテンシャルがあがるような取組みを、より積極的に展開していただきたい。また、今回取り組まれた横浜市住宅供給公社の方々の知恵や経験も、これからのまちづくりに生かしていただければと思う。

青木議員：

暮らしの相談ができるカフェというのは、具体的にどんなカフェか。

横浜市住宅供給公社：

2区画あるうちの1区画をカフェ、もう1区画は何か地域の人が集まれるようなものを考えている。

青木議員：

東口の再開発の起爆剤となる場所なので、行政とも連携していただいて、閑散とならず、人が集える場所となるようにしっかりと企画していただきたい。それともう一つ、この地域交流スペースは、現状どういう状況になっているのか。このまま流れてしまうと、ただの会議室スペースになってしまう気がする。歴史ある、ポテンシャルある保土ヶ谷駅の地域特色を生かしたスペースだといいと個人的には感じている。

横浜市住宅供給公社：

これまでも、色々ご意見をいただいたり、どういった団体が使えるか

などの調査は行ってきたが、コロナ禍でなかなか進まなかったのが現状。しかし今年度に入ってから、都市整備局、保土ヶ谷区、地域の自治会長と意見交換をしており、また、運営体制についても、地元団体等での運営の可能性のある方々と話合う場も設けている。今後、継続的、定期的に話し合いを重ね、開業時にはしっかりと運営体制が取れるようにと考えている。

青木議員：

是非、有効な利用ができるようにお願いしたい。

北谷議員：

3階の保育園についてだが、定員は何人ぐらいを想定しているか。

横浜市住宅供給公社：

60名の認可保育園を想定している。

北谷議員：

小さなお子様が通われるので、交通面での安全確保もお願いしたい。

備 考